

資料

ミドリヒョウモンの雌雄モザイク型

高橋克之

群馬県立自然史博物館: 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1

キーワード: ミドリヒョウモン, 雌雄モザイク型

Gynandromorphic specimen of *Argynnis paphia tsushimana*

TAKAHASHI Katsuyuki

Gunma Museum of Natural History: 1674-1 Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma 370-2345, Japan

Key words: *Argynnis paphia tsushimana*, Gynandromorph

ミドリヒョウモンは北海道・本州・四国・九州に、国外ではユーラシア大陸の温帯から寒帯に広く分布する。成虫は年1回、6~7月に羽化し、低山帯では一時夏眠した後、9~10月に再び活動する。平地から亜高山帯まで普通に見られ、各地で大型ヒョウモンチョウ類中の最優占種となる

(猪又, 2006)。

本稿で報告するミドリヒョウモンは2016年6月12日に群馬県沼田市玉原高原において利根沼田自然を愛する会の会員によって撮影・採集された雌雄モザイク型である。正中線から右半分は翅の色彩や斑紋パターンおよび前翅の黒い



図1. 雌雄モザイク型.



図2. 雌.



図3. 雄.

3本の性標などから雄の特徴が見られる。一方の左半分は雌の斑紋パターンが見られる。また胴体末端は雌の特徴が現れている印象を受ける。雌雄モザイク型の出現機構は現在、チョウでは不明であるが、発生初期の核分裂期におけ

る本来雌となるべき胚(XX)の性染色体(X)1本に欠落などの異常が起こったためであると推測されている(本田・加藤, 2005)。



図4. 斜め上から見た胴体末端.



図5. 後方から見た胴体末端.



図6. 裏面に緑色の斑が見られるのが種名の由来。(提供: 利根沼田自然を愛する会)



図7. 雌雄モザイクのミドリヒョウモン。(提供: 利根沼田自然を愛する会)

謝辞

利根沼田自然を愛する会の皆様には標本ならびに生態写真・映像を提供して頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 猪又俊男(2006): 蝶. 山と溪谷社, 東京, 191pp
 本田計一・加藤義臣(2005): チョウの生物学 東京大学出版会, 東京, p.182-183